

平成25年9月27日

各位

上場会社名 株式会社 タイヨー  
 代表者 代表取締役社長 清川 和彦  
 (コード番号 9949)  
 問合せ先責任者 財務部長 村田 浩  
 (TEL 099-268-1211)

## 業績予想の修正及び特別損失の計上に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成25年4月8日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。また、第2四半期において特別損失を計上することになりましたのでお知らせいたします。

記

### ● 業績予想の修正について

平成26年2月期第2四半期(累計)連結業績予想数値の修正(平成25年3月1日～平成25年8月31日)

	営業収益	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	67,000	1,160	1,160	510	26.07
今回修正予想(B)	65,008	654	738	264	13.54
増減額(B-A)	△1,992	△506	△422	△246	
増減率(%)	△3.0	△43.6	△36.4	△48.2	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成25年2月期第2四半期)	64,317	803	791	411	20.42

平成26年2月期通期連結業績予想数値の修正(平成25年3月1日～平成26年2月28日)

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	134,000	2,900	2,900	950	48.56
今回修正予想(B)	129,755	2,065	2,049	827	42.29
増減額(B-A)	△4,245	△835	△851	△123	
増減率(%)	△3.2	△28.8	△29.3	△12.9	
(ご参考)前期実績 (平成25年2月期)	128,547	2,142	2,093	860	42.89

平成26年2月期第2四半期(累計)個別業績予想数値の修正(平成25年3月1日～平成25年8月31日)

	営業収益	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	66,500	1,040	1,040	420	21.47
今回修正予想(B)	64,722	455	547	156	8.02
増減額(B-A)	△1,778	△585	△493	△264	
増減率(%)	△2.7	△56.3	△47.4	△62.9	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成25年2月期第2四半期)	64,071	675	677	374	18.59

平成26年2月期通期個別業績予想数値の修正(平成25年3月1日～平成26年2月28日)

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	133,000	2,600	2,600	770	39.36
今回修正予想(B)	128,787	1,851	1,837	670	34.26
増減額(B-A)	△4,213	△749	△763	△100	
増減率(%)	△3.2	△28.8	△29.3	△13.0	
(ご参考)前期実績 (平成25年2月期)	127,982	1,866	1,826	677	33.78

修正の理由

(1) 第2四半期連結及び個別の累計業績予想数値の修正理由

当第2四半期連結及び個別累計期間におきましては、昨年末からの円安・株高の進行に歯止めがかかったものの、海外

経済の持ち直しと円安を背景とした輸出環境の改善や、公共投資の増加、消費者マインドの高まりなどによって、景気は緩やかに回復しつつあります。

このような状況のもと、当社グループは「強靱な企業体質による第二の創業」をスローガンとした第二次中期経営計画の最終年度として、引き続き変革、挑戦、創造できる企業文化づくりを推進し、「価値の創造」と「顧客の創造」による営業利益と企業価値の向上を目指してまいりました。また、鹿児島、宮崎の経営基盤を一段と強固なものとするために、既存店舗の活性化や不振部門の改善など、お客様に満足していただき地域の暮らしに役立つ店舗づくりを進めてまいりました。

しかしながら、流通を取り巻く環境は、業種、業態を超えた競合が激しさを増すなか、原材料の価格高騰や電気料金の値上げ、夏場に猛暑が続き昼間の客足が伸びなかったことなどが影響し、経営環境は厳しい状況で推移いたしました。

これらの結果、営業収益、営業利益、経常利益、四半期純利益ともに前回予想を下回る見込みとなりました。

#### (2) 通期の連結及び個別業績予想数値の修正理由

通期の業績予想におきましても、低価格・節約志向の継続、同業及び他業種との競争激化等引き続き厳しい経営環境であることにより、営業収益、営業利益、経常利益、当期純利益ともに前回予想を下回る見込みとなりました。

#### ●特別損失の計上について

平成26年2月期第2四半期において、取り壊しを決定した建物の撤去に見込まれる費用として店舗閉鎖損失引当金繰入額74百万円、それに伴う減損損失として100百万円、公開買付関連費用として54百万円を計上いたします。

※業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上